

第113回新潟日報社と共催 @新潟・松浜地区

むすび塾

松浜地区は日本海に面し、新潟県の津波浸水想定で浸水被害が予想される。阿賀野川と新井郷川が流れ、1964年の新潟地震では沿岸だけでなく、川沿いの地域も津波の浸水被害を受けた。

参加者からは「小中学校が避難ビルだが、震災の津波を思うと不安」「新潟地震の津波の話を聞いていたが、現実感がなかった。語り部に津波の体験談を聞き、備える必要性を実感した」との意見が出た。

松浜みなと自治会副会長の遠藤祐一さん(68)は「1963年の日本海中部地震で新井郷川を津波が遡上し漁船が転覆するのを見た。地震の後は津波が来ると肝に銘

知識と備え つながる命

厳冬の災害を想定し準備しておくの良いもの

在宅避難の場合

防水バッグに入れた長袖の下着や薬
カセットコンロ
凝固剤
便座を利用する携帯トイレ

避難所の場合

備蓄倉庫
タオル 下着
毛布 下着
寒いのでかぶる 上着
寒いのでかぶる 上着
湯たんぽ 上着
ガス

避難所で低体温症にならないために

ぬれた服を脱がせ、乾いたタオルで拭いて着替えさせる

ホッ

温かい飲み物を飲む

ホッ

体を寄せて互いに温め合う

ホッ

体を動かしたり、湯たんぽ、お湯を入れたペットボトルなどで体を温める

ホッ

監修 減災・復興支援機構

イラスト さとうあけみ

「津波は川が多く、川をさかのぼる津波に警戒する必要がある。東日本大震災の被害調査を反映し、川沿いの浸水も予測したマップを、命を守る活動に使ってほしい」と呼びかけた。

松浜自治振興会会長の神田征男さん(78)は「2019年6月の新潟・山形地震で津波注意報が出た際、車避難で渋滞が起きたことに触れ「高齢者の徒歩避難は時間がかり諦める人もいる。どう誘導し、支援側の命も守れるか良い案を知りたい」と語った。

菅野さんは高齢者が玄関先まで移動する高知県の避難訓練を例に「体操など避難に必要な体力づくりを含め、はたして玄関まで出るなど自力の行動を促すことが大事。支援する側もされる側も逃げられず、避難の課題解決にもつながる」とアドバイスした。

松浜中PTA執行部役員の山崎典子さん(53)は「新潟地震の津波の痕跡や逸話が地域に残るが、その話を小中学校でできていない。子どもの命を守るため、防災訓練などで取り入れてほしい」と語った。

菅野さんは病院の患者さんが低体温症などで亡くなったことを挙げ「体温が下がると死に至ることがあることを知ってほしい。ぬれた体を拭いて動いたり、温かい飲み物を飲んだりして、体の内側を温めることが対策として有効だと助言した。



津波避難と低体温症対策探る

東日本大震災の教訓を将来の災害への備えに生かそうと、河北新報社は昨年12月16日、113回目の防災ワークショップ「むすび塾」を新潟市北区の北地区コミュニティセンターで開いた。新潟日報社と初めて共催した。東日本大震災の語り部3人が、地元の新潟市北地区の住民を対象に講

■むすび塾に参加して



●頼れるのは近所 東日本大震災の被災者の話を聞き、いざというときに備え、近くに住む人たちと良好な関係を築いておくことがどれほど大切かを感じた。昔に比べ、地域内の結び付きは薄れたとはいえ、頼れるのは「近所。その重要性を多くの人に伝えていきたい。」
(民生委員 小暮あや子さん 74歳)



●準備不足を痛感 大変な思いをしたにもかかわらず、それを乗り越え、前向きに生きる東日本大震災の語り部たち。その姿に接して胸を熱くした。新潟でも約60年前に大きな地震があったが、その時の経験や教訓は今に伝えられていない。私たちの備えの不十分さも痛切に感じた。
(民生委員 佐藤あや子さん 75歳)



●津波想定し対策 海、川に近く、津波に注意しなければならぬ地域に住む。ハザードマップを使い、毎年避難訓練もしているが、東日本大震災のような津波が来たらと思うと不安だ。地震が起きたら、津波が必ず来るというところを肝に銘じてしっかり備えたい。
(自治会副会長 遠藤祐一さん 68歳)



●自分の命最優先 介護施設を運営している。災害時、自分が助からないと他の人を助けられない。使命感だけで人の命は守れないことが、菅野さんの話で分かった。利用者の家族に、災害時の対応を十分に説明しておく必要性も感じた。災害の種類別に職員の動きを想定しておきたい。
(特別養護老人ホーム施設長 菅原誠さん 52歳)



●守る方策学ぶ つらい経験を聞くだけでなく、子どもをどうすれば守れるかという避難を促せばいいのか、備えを考えるポジティブな講演だった。震災で起きたことをもっと知りたくなった。被災経験の生の声を中学生にも聞いてもらい、避難の意識を高める機会をつくりたい。
(松浜中PTA役員 山崎典子さん 53歳)



●避難の初動意識 川を逆流した津波の話が印象に残った。海と川に囲まれた松浜地区で、津波は他人ごとではない。災害発生時、徒歩での避難が難しい1人暮らしの高齢者もいる。中学生の協力を得たり、渋滞を想定した車の避難先を速めに設定するなど、初動を意識した訓練をしたい。
(松浜自治振興会会長 神田征男さん 78歳)



震災の教訓を地域の備えに結び付けようと、アイデアを出し合う住民、助言者、語り部たち